

会 議 報 告 書

主催者名	匹見総合支所住民福祉課
会 議 名	平成 26 年度 第 5 回 匹見地域協議会
開催日時	平成 26 年 11 月 5 日（水） 14 時～16 時 15 分
開催場所	益田市匹見総合支所 大会議室
出席者	・ 匹見地域協議会委員（6 名） ・ 市長、政策企画局長、人口拡大課長 ・ 匹見総合支所：長谷川支所長 住民福祉課：靱田課長、小田 地域づくり推進課：村上課長 建設課：露口課長

【会長あいさつ】

地域協議会と顧問制度について、市の方針を市長より説明したいとのこと。市長の説明の後、皆様のご意見をお聞きしたい。

【協議事項】

(1) 地域協議会と顧問制度について <資料 1 市長より説明>

・ 顧問制度については、平成 27 年 3 月 31 日をもって廃止とし、地域協議会制度については、5 年間延長（平成 32 年 3 月 31 日まで）とする。その後の取り扱いについては、その時点で判断する。また答申にて要請をいただいた、地域協議会への出席については可能な限り出席したい。

《質疑・意見》

地域協議会の 5 年延長について

- 今後匹見町の人口はますます減っていくなかで、匹見町の意見は本庁に届かなくなるのではないかと。また、今後の地域協議会の立場についても説明してもらいたい。
 - ▷ 地域協議会は条例によって位置づけられた機関であり、今後かなり位置づけの重い機関だと思っている。それだけの重みを持った機関からの意見が届かなくなるということにはならないと思う。
- 顧問制度が廃止になった後、地域協議会の意見は誰が本庁に持って上がるのか。
 - ▷ 市長が地域協議会に出席できる時は直接聴く。出席できない場合でも地域協議会の会長なり支所の職員と一緒に本庁に直接来てもらえれば、話し合いの場を必ず設けるようにしたい。
- 市のトップレベルの協議というのは、どんなメンバーで行うかの協議か。また、顧問は入るのか。
 - ▷ 部長級以上で行う、政策調整会議。顧問も入っている。
- 顧問制度がなくなった場合、匹見町の意見は取り上げられにくくなるのではないかと。
 - ▷ 案件の内容にもよると思う。ただ、意見を聴かない、話し合いを避けるということはない。むしろ厳しい現状になっていけば市長だけでなく他の者も意見を聴いてやっていく必要があると思う。
- 支所長の位置づけはどうなっているのか。また、顧問の意見と支所長の意見は同等の扱いなのか。
 - ▷ 支所長については部長職。意見の扱いに関しては、顧問という条例上の位置づけからすれば、常勤職員と非常勤職員という違いは出てくる。

- 意見の吸い上げ方に対する方向策に具体性が欠けるのではないか。
 - ▷ 合併後の人事異動等で匹見の地域事情も大分共有化されてきている。顧問がなくなって匹見はほっとかれるだとか、意見を聴いてもらえないということはない。匹見だけでなく益田市の中山間地を元気にという目標で、人口拡大課が中心、窓口になって対応していく。
- 顧問制度がなくなった場合、支所長の意見だけでは弱いのではないか。地域協議会の意見をどういう形で吸い上げていくのか。
 - ▷ 先ほども申し上げた通り、地域協議会には市長が可能な限り出席する。出席できない場合でも、地域協議会の会長なり支所の職員と一緒に本庁に来てもらえれば話し合いの場を設ける。また地域協議会の意見は、条例に根拠を持つ機関の意見として重みを持って伺う。
- 匹見町の人口が激減するなかで、市として今後の一体感を醸成させる解決策はあるのか。
 - ▷ 地域協議会、政策調整会議共に出席する者として支所長がいる。顧問制度が廃止になった後、支所長の意見というのは、顧問の意見であり、地域協議会の意見であるという認識を持って意見を聴くことになる。支所長の意見をなるべく色濃く市政に反映できるようにしたい。
- 高齢化の進むなか自分達で出来ることには限界がある。行政、市長に守っていただきたい。
 - ▷ 合併後、人口が 500 人減ったという数字もある。そのこともふまえ、今後の匹見地域に対する施策を充実させていきたい。

新市建設計画について

- 新市建設計画の進捗状況を市長はどのように聞いているのか。
 - ▷ 新市建設計画については、それぞれの地域において進捗状況を調査し、整理している。議会には今年度中に新市建設計画で完了したもの、見直しの必要なもの等報告する。

地区振興センターの正規職員について

- ▷ 地区振興センターに残っている正規職員は今年度いっぱい引きあげる。その代わり、匹見総合支所の地域づくり推進課に地域振興担当職員を一人配置する。

【意見交換会】

ワサビについて

- 加工場とリース事業の件の進行状況は。
 - ▷ 匹見農産加工場の施設が老朽化しており、新しいニーズにこたえられていない。ワサビ振興協議会のなかで今後のワサビ振興について見直しをしている。今後、どういう方向性でワサビ振興の体制を構築するか、地域の思いを固めていくために議論していきたい。
- 新規就農者は補助金があるから生活できている。支所にワサビ振興の専従の職員を置いているのなら、増収に繋がる計画等、もっと出していくべきではないか。
 - ▷ 指摘のことについては、専従職員と一緒に地域と連携しながら活動を展開している。ワサビ振興協議会の中で議論し方向付けをしていきたい。
- いつまでに、どこまでという目標はあるのか。
 - ▷ ワサビ振興協議会のなかでは、大きな視点として農地の流動化を図る取り組み、独自産業化の取り組み、農産物加工場の在り方について議論しているが、いつまでにどこまでという方向性を出す

ということではできていない。

- 目標設定などもっとスピーディーにやっていかなくてはいけないのではないかと。
 - ▷ 10月で半期が終わる。企画調整員の半期の行動状況と下期の取り組み課題を早急に整理させる。
- 合併10周年事業で流れたDVDを見たが残念だった。どういう企画であの内容になったのか。
 - ▷ 内容については、制作実行委員のなかで新規就農者に対し協力依頼をし、協力できるという方に作成、編集について協力していただいた。
- DVDもだが、人口拡大に向けてもっとアピール性を持ってやるべきではないかと。
 - ▷ DVDについては終わったことだが、今後まだまだアピールする場所はたくさんあるので今回の反省を活かしたい。
- 今匹見の生産業を支えているのはワサビ生産者。生産者の高齢化も進み生産量も落ちていくなかで生産組合がしっかりと方向性を示すこと、全体の増収に繋がる考え方が必要なのではないかと。
 - ▷ 匹見地域の特産品として何がふさわしいかという議論を何度も繰り返してきたが、やはりワサビという結果になっている。現在、生産組合、JA、県、市といったところで構成員を組織し、振興策について早急に確立しようと議論している。ただこれは行政が答えを出す問題ではなく、とにかく生産組合が軸となって振興を図っていく必要がある。

支所各課の仕事配分について

- 支所各課の仕事の配分、バランス、職員配置が悪いのではないかと。
 - ▷ 今、人事的には落ち着いているので計画的な人員配置ができるようになってきている。今後は専門知識を身につけ、実力を発揮できるようなある程度長期的な人事政策が必要だと思う。

空家について

- 新しく空家に入ってくる人がいる場合には、事前に自治会長に話があるのか。
 - ▷ Iターンなどで空家バンクを紹介する時には、地元との付き合いを大事にして下さいということも説明している。実際に入居される場合にも自治会長の元に職員と一緒にあいさつに行っている。
- Iターンの人がきて家を買う場合、何年かその土地に住んでみてからの方がいいのではという指導はないのか。また農地についても買ったのに転出してしまうというケースがあって困る、農業委員会がしっかり説明しなければいけないのではないかと。
 - ▷ 家の購入に関しては本人の自由な意思なのでこちらから何も言うことはできない。農地については農地法の関係等々、仕組みについて説明した上で本人が判断するという手順をとっている。

市営住宅について

- 市営住宅を借りている人が駐車場などの一角に畑等作る場合には、支所建設課でなく、住宅供給公社に直接言わなければいけないのか。
 - ▷ 建設課の方に相談に来ていただければと思う。ものによっては最終的に本庁の建築課、もしくは住宅供給公社に行くことにはなる。
- 入居者は皆、事務的なことは素人だから、すぐに住宅供給公社に回すのではなく親切な対応をお願いしたい。
 - ▷ 先ほども言ったがものによる。ただ、可能な限り建設課で対応したい。